

稲毛海浜公園自然観察会

冬こそ探そう！公園の鳥たち

南 俊哉(千葉市)

日 時：2024年2月17日(土)10:00~12:00

場 所：稲毛海浜公園(千葉市)

参加者：21名(大人18名、子ども3名)

指導員：山口・田島・藤井・伊藤(事)・相吉・本田・南、中田智(協力)

当日は晴天に恵まれ、野鳥を観察しやすい天気でした。まず、観察会の概要の説明があり、観察会スタート。少し歩くとカラスの鳴き声のするところで、ハシブトカラスとハシボソカラスの違いについて田島さんから説明があり、カラスが産む卵の数(3~5個)、卵の色(まだら模様)、好きな食べ物について、クイズを通して知ってもらいました。お子さんが元気よく答え、場が和みました。他にも、なぜカラスは人の頭をコツつとあたりに来るのか。カラスは賢く、エサ取りの邪魔をされた人の顔を覚えているという事、カラスの漢字(鳥)の横棒が一本ないのはなぜ、など色々な角度からカラスをとらえたお話でした。照葉樹林を抜けた先の水辺で、カルガモのオスとメスに遭遇。オスとメスの違いは体のサイズで、大きい方がオス。また、カモは採餌の習性として、水面で獲るものと潜水して獲るものがある。カルガモは水面で獲る部類になります。梅が咲いている場所で、メジロとウグイスの違いについて山口さんから説明がありました。少し行くと、ツバキの落ちた花を見せて、赤い花卉に黒い点があるが、これは何かと問いかけます。メジロが蜜を食べにきた証拠という事で、花にとって大事な受粉のための媒介者がメジロであり、受粉媒介者には虫・風・鳥などがあるとの説明。池の辺りでは、オナガカモとユリカモメに遭遇。各自、双眼鏡や指導員が持参した望遠鏡をのぞきながら、身体の特徴を確認していました。水鳥が寒さに強いのはなぜか。羽毛の断熱性、耐水性についての説明、ダウンコートとレインコートを両方着ているというわかりやすい説明もありました。ユリカモメについては、成鳥と幼鳥の違い(口ばし、脚の色)を説明して、探してもらいました。その後、オナガに遭遇し、きれいな水色の羽根を見る事が出来ました。砂浜に出ると、沖にいるカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、突堤にいるカワウ、セグロカモメ、ヒドリガモを観察しました。広場の芝生で、ツグミ、ヒヨドリに遭遇。一通り観察を終え、野外音楽堂で集まり、おさらいとして目視できた鳥の種類を確認し、16種類ほどという結果でした。参加者からの感想として、鳴き声はするけどなかなか見つけられず、見つけるテクニックを身につけたいというコメントもありました。今回、21名に対して指導員1名で説明する形で実施しましたが、人が広がって話が聞こえないなど、今後の課題となります。また、鳥はいつも決まった場所に居るという訳ではないので、観察会のデザインが難しいところもありますが、担当指導員が、自作の図、画像、クイズで、参加者の関心をいかに引き出すか、随所に工夫を感じました。

<出会った鳥>

オナガ、オナガガモ、カルガモ、カワウ、カワラバト、カンムリカイツブリ、シロハラ、セグロカモメ、ツグミ、ハクセキレイ、ハシブトカラス、ハジロカイツブリ、ヒドリガモ、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、ユリカモメなど



ツバキの花をのぞき込む



突堤にいる鳥の観察